

企画展『野外の危険なもの』のご紹介

碓 井 徹

平成22年2月13日（土）から、2階企画展示室で『野外の危険なもの』という企画展が始まります。

内容は、人間に危害を加える可能性がある動物や有毒植物だけに限らず、普段の家庭生活や学校生活でも接する可能性がある昆虫類や小動物についても取り上げています。また、タイトルをあえて『～危険な生き物』にしなかったのは、動植物だけではなく、野外活動の際に注意した方がよい岩石や鉱物など、地質的な切り口の展示も考えたからです。

では、展示の一部をご紹介します。

《動物分野》

ほ乳類ではニホンイノシシやアライグマなどを取り上げます。ニホンイノシシについては、昨秋からこの冬にかけて、各地で市街地に出没して大騒動になった時の新聞報道も展示します。また、アライグマについては、日本では『ラスカル』のイメージが先行して何となく“可愛らしい動物”のイメージがありますが、実は、鋭い爪をもった危険な動物だという視点で展示をします。



写真：鋭い牙のニホンイノシシ

は虫類では、埼玉県でも各地でみられる有毒ヘビであるマムシとヤマカガシを取り上げています。また、近年、東部低地の水辺で記録が急増しているカ

ミツキガメについても、生態写真や剥製も展示をします。



写真：身近な毒ヘビ ヤマカガシ

昆虫類では、“身近にいる危険な生き物”の筆頭とも言うべきスズメバチの仲間について、成虫の標本だけではなく、大型の巣や駆除用具なども展示に加えて少し詳しく紹介します。また、昭和30年代に『目にはいると失明の恐れがある…』などと報道されて有名になった体長7mmほどの甲虫アオバアリガタハネカクシや、畑地や庭などでも見られ、刺されるとアナフィラキシーを引き起こす可能性があるオオハリアリ（体長4mm程度）も標本や拡大写真を展示します。



写真：樹液に集まるオオスズメバチ

昆虫以外の小動物では、クモ類やムカデなどを取り上げます。特に、外来種の毒グモとして話題になったセアカゴケグモについては、関東地方ではこれまで群馬県で1例が記録されただけですが、関西での爆発的な分布拡大の様子から判断して、いずれ関東地方でも分布を拡大してくるだろうという判断から、本種の分布や生態について標本と生態写真で詳しく紹介します。